



安見児得たり

今回の歌の作者は、藤原鎌足です。鎌足はもと中臣鎌子と称し、中大兄皇子（後の天智天皇）と共に蘇我氏を滅ぼし（乙巳の変）、その後の一大政治改革（大化の改新）を成し

われはもや 安見児得たり 皆人の
得難にすといふ 安見児得たり

訳

私は、ああ安見児を手に入れることができませんでした。宮廷の人々が皆
思いをかけて遂げられなかった安見児をわがものとししました。

藤原鎌足 巻二（九五番歌）

遂げた人物です。天智八（六六九）年十月に病に倒れると、天智天皇は

難にすといふ」というように、容易に
お近づきになれない存在でした。

鎌足の邸宅に見舞いに訪れ、その数日後には大海人皇子（後の天武天皇）を遣わして、当時の人臣第一位の階位である「大織冠」と「藤原」の姓を賜ったことが『日本書紀』にみえます。鎌足は藤原氏の祖とされ、彼の詳細な伝記は、藤原氏の家伝書である『藤氏家伝』にも記録されています。

采女の安見児を賜り、結婚することとなったでしょう。みんなの憧れの存在をわが妻としたその喜びが、「安見児得たり」の繰り返しからあふれ出ているように思われます。その純粋な喜びを表現し、周囲の男たちに自慢する歌である一方、采女を下さった天智天皇に対する感謝と感激を大仰すぎるほどに表現してみせたともいえ、政治家・鎌足らしい一面も垣間見えます。

この歌は、題詞に鎌足が采女の安見児と結婚した時に作った歌、と記されています。詠まれた時期は不明です。采女とは、天皇や皇后の身の回りの世話をした女性たちで、地方の氏族の若く美しい女性を選ばれました。時には天皇の子を身ごもることもあったため、天皇の許可なく采女と結婚することは固く禁じられていました。それゆえ、当時の男性たちの憧れの的であり、歌で「皆人の得

鎌足は、『藤氏家伝』によると「藤原之第（藤原の邸宅）で生まれたとあり、この「藤原」は、現在の明日香村の「小原（大原）」が伝承地の一つといわれています。鎌足ゆかりの地を訪ねに、みなさんもぜひ明日香村にお出かけください。

（本文 万葉文化館 大谷歩）



明日香村役場 ☎0744-54-2001

藤原鎌足公誕生地？ 明日香村小原

藤原鎌足は推古天皇二十二年（六四四）年大和国高市郡の生まれといわれています。その誕生の候補地の一つとされている場所が、明日香村小原にある大原神社です。ここには「大織冠誕生之旧跡」という石碑が建っているほか、大原神社の奥を流れる「中の川」のほとりには「藤原鎌足産湯の井戸」も遺されています。

万葉ちゃんの
つぶやき

和歌に関連するものを紹介するよ！



万葉ちゃん